

外郭団体経営健全化方針の概要と取り組み状況

【名古屋ガイドウェイバス株式会社】

経営健全化方針の記載内容	令和4年度の取り組み結果
<p>財務構造の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 設備更新における会社の負担軽減を図ることや市からの貸付金を解決し債務超過を解消することが必要であることから、市とガイドウェイバス（株）が、様々な経営再建手法について検討し経営再建計画を策定していく。 鉄道事業に近い設備となっている駅内装、運行監視システム、駅監視システムなどの設備更新費用における市の支援のあり方について検討していく。 資産価値がほとんど滅失している初期の車両購入費や建設時の整備事業費に充当した建設時貸付金の返済方法及び債務超過の解消に向けて検討していく。 	<p>建設時貸付金の返済や債務超過の解消を含めた経営再建計画策定には、次期車両更新に向けた「輸送事業の再構築」の内容をある程度固め、事業スキームや市の支援策を整理することが前提になるため、会社とともに国や関連メーカー等との協議を進めた。</p> <p>コロナ禍において旅客運輸収入が大幅に減収し厳しい財務状況となっていることを踏まえ、抜本的な経営支援の一環として、公共交通における安全、安定輸送及び利便性の維持確保のため、設備改修及び車両修繕に対して補助を行った。</p>
<p>輸送事業の再構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 次期車両更新に向けて自動運転技術を活用した新たなシステムの導入を目指し新型車両の開発に着手する。これにより、バスの低床化、ピーク時の隊列走行による輸送力増強、正着性・加減速制動などの新たな機能の導入により乗り心地を向上させ、利用者の増加を図っていく。 全車の無人運転化を目指す中で労働集約型コスト構造の転換を図っていくこととし、当面の目標として隊列走行時における後続車の無人化に取組んでいく。 これらの取り組みは、システム自体の高度化・再構築を志向していることに加え、志段味線の導入経緯、全市の交通ネットワークの企画・推進の観点から、市が会社と共同して車両及び運行システムの開発を実施する。 	<p>前年度に引続き、市と会社が協力して情報収集及び以下の事項について検討を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自動運転技術を活用した新たなシステムの導入に向けて、新型車両に必要な機能・性能の精査や、運転・運行管理等の運用面について、関連企業、研究機関等の協力を踏まえ検討 既存インフラを大型路線バスが走行できるバス専用道に改修するための技術的方策に係る概略検討 新たなシステムの法的な位置付けや事業主体等、事業スキームに関する概略検討 上記を踏まえた新たなシステムに係る国、研究機関、関連メーカー、事業者からの情報収集及び必要な調整の実施

団体名(名古屋ガイドウェイバス株式会社)

○法人の財務状況
(貸借対照表から)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
資産総額	1,317,143	1,265,583	1,097,761	965,210	892,192
負債総額	1,996,392	1,962,917	1,965,766	1,994,518	2,047,519
純資産総額	▲ 679,250	▲ 697,334	▲ 868,005	▲ 1,029,308	▲ 1,155,327

(損益計算書から)

(単位:千円)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
経常収益	741,904	716,682	594,018	617,487	628,029
経常費用	727,141	733,789	763,711	780,667	826,181
経常損益	14,762	▲ 17,107	▲ 169,694	▲ 163,180	▲ 198,153
経常外損益	▲ 110	0	0	2,853	73,111
当期純損益	13,696	▲ 18,084	▲ 170,671	▲ 161,303	▲ 126,019

○財政的リスクの状況

(単位:千円)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
債務超過額	679,250	697,334	868,005	1,029,308	1,155,327
損失補償、債務保証及び 短期貸付けの合計額(A)	0	0	0	0	0
標準財政規模(B)	644,498,894	646,827,243	654,510,356	673,008,099	664,266,118
(A)／(B)	0	0	0	0	0